

令和7年度 自己評価書・学校関係評価書

令和8年2月27日
真庭市立美川こども園
園長 横山 智江 印

1 美川こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

『一人一人の「じょうぶな頭」と「かしこい体」を育み「まあるい笑顔」を輝かそう！』

○めざす子ども像

「どんどん考える子ども」（じょうぶな頭：思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ）

「いきいき楽しむ子ども」（かしこい体：元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性・意欲）

「ぽかぽか温かい子ども」（まあるい笑顔：思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性）

2 本年度の重点目標（課題）

本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）

「心も体も元気に育つ子どもをめざして

～「元気いっぱい」・「お腹いっぱい」・「心いっぱい」の環境づくり～

基本的な生活習慣の食・睡眠が十分に足りてなく登園する園児もいるように感じている。健康でなければ元気もなく、遊んだり学んだりすることもできない。また、「愛されている」「自分って素敵」と、自分が好きであれば友達やモノにも優しくでき、自己肯定感を高められる。このようなことが揃うことで、心も体も元気に育つのではないかと考える。幼児の内面を理解し「元気いっぱい」「お腹いっぱい」「心いっぱい」の3つのキーワードをもとに環境構成をし、主体的に活動し、遊びや生活を繰り返していくことが重要であると考えます。

「元気いっぱい」…しっかり体を動かす。体力をつける。ルールを守る。けじめをつけた生活。

「お腹いっぱい」…基本的な生活習慣を身につけて生活のリズムを整える。自分のことは自分でする。

「心いっぱい」…愛されている。安心できる人と関わる。情緒の安定。優しい気持ちを育てる。

1 心も体も動かされる環境づくりのために

子どもたちが「なんで?」「これどうなってるの?」と驚いたり、「すごい!」「おもしろい!」と感動したり、「こうしたらどうなるかな?」と考えたりと心動かしながら関わり合えることができる環境を構成しながら、自ら選んで遊ぶ時間の活動の充実を図る。子どもが「話したい」と思った機会を大切に受け止め、最後まで丁寧に聴くことで、聴いてもらえた満足感や心地よさを十分に感じられるようにする。

2 幼児の内面を理解し、夢中に遊べる環境づくり

子どもたちの言葉では伝えきれない思いや考えを、行動・表情・仕草などから内面を理解することで、安心して生活や活動ができるよう配慮していく。

3 保護者支援、家庭との連携しやすい環境づくり

日々一緒に過ごす中での子どものつぶやきを保護者へ伝えながら、子どもの発する言葉のかわいらしさや面白さを伝え、保護者自身も子どもの言葉に耳を傾けたいと思えるように働きかける。毎月希望懇談週を設定し子どもの育ちなどを話し合う機会をもつ。また、メディアコントロールを意識しながら基本的な生活習慣の大切さを知らせていく。

4 感性と表現力を豊かにし発達に応じた環境づくり

生活の中で、心を動かす出来事を経験できるように、季節や行事を取り入れた体験や絵本を聞いたり、歌を歌ったり手遊びをしたりする機会を日常的にもち、感性を高める実践を重ねる。また、地域に出かけ、自然体験や地域の方に触れ園内ではできない経験ができるようにする。

3 本年度 美川こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・ 指導計画	園の教育保育理念、目標を理解して指導計画を立て、記録や振り返りをしながら保育の改善に努めた。	3	3
行 事	年齢ごとの発達段階を考慮した行事のもち方を工夫した。それぞれの年齢のねらいを明確にしなが ら実施し、園児にとってどんな体験ができるのか を考え、育ちをポイントにして見直しを行っている。	3	4
組織・運営	経営計画をベースに職員一人一人を尊重し、それ ぞれの得意なことが活かせるように、組織作り・ 園運営をしている。	3	3
学級経営	一人一人の園児に寄り添い、内面理解をすること を保育の基本としながら温かい人間関係を構築 し、自己発揮できる場を作っている。	3	4
特別支援教育	必要に応じて職員を配置して、一人一人の困り感 を理解しながら援助や環境作りをしている。丁寧 に保護者との話し合いをもち、研修を受け、関係 機関との連携も図りながら進めている。	3	4
安全管理・ 保健指導	園内の安全点検を定期的に行い、事故防止の配慮 や職員研修を行い安全に過ごせるようにしてきた。 避難訓練、交通安全指導も毎月行っている。 また、生活習慣、感染症等対策としての情報提供 や家族時間を大切にする取組を推奨してきた。	3	4
研修 (資質向上)	園外研修への参加やテーマを設けた園内研修を計 画的にしている。今年度は新規採用教員研修の園 内研修が8回あり全職員で研修する場が多々あっ た。(園外54回、園内20回)	3	4

<p>情報提供・ 保護者・ 地域との連携</p>	<p>保護者と日常的な情報交換に加え、毎月希望懇談週を設けて懇談を行った。園と家庭との連携を図っている。日々の見守りや行事への参加、教材の準備などにも協力をいただいている。住民会等の協力で、花の寄せ植え作りの交流も継続できた。また、地域の方々の協力のおかげで地域の自然でたくさん遊ぶことができた。この経験が子ども達の今後、「美川の良いところ」として伝えることができればと思っている。</p>	<p>3</p>	<p>3</p>
<p>小学校との接 続・連携</p>	<p>接続に向けて、小学校の先生方に園に訪問してもらおう。卒業児の様子を小学校に行き見せてもらうことで情報共有をしている。今年度は小学校教員が半日保育体験を行い園の様子を実際に見て感じることができた。また、1学期には1年生が園に来て交流をする場もあった。3学期には1、5年生との交流会も行い就学に向けての期待がもてた。</p>	<p>3</p>	<p>4</p>
<p>子育て支援</p>	<p>コドモンでのお便りや掲示による生活習慣や病気の対応等の情報提供をしている。保護者が必要な時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。家族で過ごす時間の良さを意識していただけるよう「ほっと」タイムカード（2歳児～5歳児対象）、生活リズムカード（1歳児対象）の活用（年5回）をしている。</p>	<p>3</p>	<p>3</p>
<p>食育の推進 (給食)</p>	<p>野菜栽培を通して、育て、調理することや食すことの喜びと、美味しく食べられることへの感謝の気持ちをもてるようにしている。また、栄養士が話をする機会をもったり、毎日の給食を保護者と子どもが食材や献立を話題にしたり、食事に関心が向くように写真掲示（コドモン配信）している。</p>	<p>3</p>	<p>4</p>
<p>食事の提供 (調理)</p>	<p>調理担当は衛生管理、体調管理をして、安全に調理できるようにしている。調理担当と園児のコミュニケーションを図ることでより給食を楽しみに、感謝して美味しく食べることができるようになっている。また、園で作った野菜を調理してもらい食べることで食に対して興味や関心をもつことが出来た。アレルギー食に対しても細心の注意を</p>	<p>3</p>	<p>4</p>

	払った。		
環境美化	美化・整備・清掃を心掛け、季節を感じ気持ちよく、のびのびと活動に取り組める環境づくりを心掛けている。夏場は園庭の広さ故に草取りが大変だった。職員と園児で草取りを行った。運動会前に草取りボランティアの方のおかげで草のない園庭での運動会をすることができた。草取りボランティア延べ人数32名。	3	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
信頼される職員	園職員として、正しい言葉遣いや態度に気をつけるよう意識し、明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。	3	4
健康な心と体	自身の感染予防に努め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている。また、各自が職員間の良好な人間関係作りに努め、信頼関係を軸に協力することができている。	3	4

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 職員は園児の姿をありのままに受け入れ、幼児理解を基盤にした、園児一人一人の良さを活かせるクラス運営ができています。園児と職員との信頼関係も深まり、職員も園児の話に耳を傾けることを意識して行っている。生活の中で、思ったことや考えたことなどを伝えようとする姿が多く見られている。3、4、5歳児では遊びや生活の振り返りをする時間が日常的にある。3歳児は先生に自分がしたことを話し聞いてもらえるうれしさを感じている。4歳児は話すだけでなく友達の話も聞き自分と同じ思いや、違う気持ちもあるということがわかりつつある。5歳児は話したり聞きあうだけでなく、話し合ったりする機会もあり、話し合っって物事を決める経験も重ねている。
- 低年齢児では発語が増え、話したい気持ちがどんどん出てくる時期に思い切り泣いたり覚えた言葉を使ったりする姿を受け入れ、しっかり自己発揮できるように関わり、職員がその言葉に自然と耳を傾け、じっくり聞くこと、温かく話しかけることで、自分から声を出してコミュニケーションを取ろうとする姿が多くなってきている。友達への興味も増え、コミュニケーションを言葉でとろうとする姿へつながってきている。
- 園児が興味をもち、してみたいくなる、挑戦したくなる環境を構成するため、自ら選んだ遊びについて月1回3未3上会議を設けて環境構成をしてきた。手作りおもちゃや手先を使う遊び、体を動かす遊び、ルールのある遊び等発達段階を考慮して工夫してきた。今年度は必要であれば会議をすることもできた。
- 終礼等では職員間で、学年を越えて子どもの良さや成長を共有できている。情報共有ができることで、担任以外の職員も、登降園時に保護者へ具体的なエピソードなどを交えて成長を伝えることができ園全体で子どもに関わることができているように思う。

- 今年度も、絵本読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせ会行ったり、地域の方と寄せ植え作りをしたり外部の方と触れ合うことができた。また、3歳以上児が地域の自然で遊ぶ体験ができた。地域の方や関係機関の協力により園の職員だけではできない心が動く感動体験をすることができた。これからも地域の方を含め、園外の方の協力をいただきながら様々な人と関わる事のできる直接体験を増やしていきたい。
- 子ども達が笑顔でいきいきと園生活ができていることは、先生方の声かけ、見守りで信頼関係ができていると思う。運動会、発表会も先生自ら子ども達と一緒に子どもの目線で動いている姿もお家の方も安心されていると思う。
- 小学校との連携や接続については、より具体的でより滑らかに進むよう計画ができています。今年度新たに行った1年生が園に出向く交流や、小学校職員の保育体験については園と小学校の互惠性のある交流となった。
- 生活発表会では、保護者の方にすべての発表をご覧いただくことに大きな意味があると実感した。観覧席にいらっしゃる方々の声を聞き発達段階を捉えてわが子を見ることにつながっていた。
- 地域の人による協力はとても大切だと思った。山での遊びの整備、花の寄せ植え、園庭草取りなどこのような体験は子ども達と一緒にすることで一層輪が広がることを願う。ただ、情報があまり行き届いておらず（受け取れていない？）参加者が園の近くの地区が多いのではという話も聞いた。今度とも地区の回覧等々で園の様子や支援の方法をお知らせして関心をもってもらえるようにする。
- 地域の方も、声をかけてもらおうと嬉しいと思う。私たちも園のために、子ども達のためにできることはお手伝いしたい。
- 園外へ出かけ山遊びや外遊びを多くして、子ども達の成長へいい影響があった。また、地域の方とのつながりも昨年より多くあった。地域の力を借りながら園の保育を進めていってほしい。

6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 子ども達の「やりたい。してみたい。」「どうなっているのだろう。」様々な思いを受け止め、実現できるように見守り援助して、生活や遊びの自立へとつなげていきたい。そのためにはいろいろなモノ・人・環境に関わることを意識して子どもと保育教諭が一緒に豊かな体験ができる園生活を作っていく保育・教育を今後も続けたい。
- 地域の方への発信として園からの手紙を来年度も続ける。地域の方が園に興味や関心をもっていただけるよう定着できるように工夫していきたい。また、保護者の方への情報提供等もコドモンや希望懇談、園の送迎での対面により信頼関係が構築できるよう努力していく。
- 引き続き子ども達の体験をより豊かにするため、園だけでなく地域に出かけて美川の美しい自然を感じ、楽しく遊べるよう人とかかわりができるような活動にしていきたい。
- こども園小学校との連携については、園と小学校の互惠性があるような活動をし、子どもも保護者も安心して就学を迎えられるようにしていきたい。
- 今後も、子ども達が安心して伸び伸びと自己発揮しながら成長し、その笑顔が輝くように、そして、安心して子どもを預けていただけるように職員一同心を合わせて取り組んでいきたい。